

第33回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 令和3年10月12日（火）14：00～14：16

2. 場 所 オンライン開催

3. 出席者 内閣府
内閣府原子力委員会
上坂委員長、佐野委員、中西委員
内閣府原子力政策担当室
進藤参事官、實國参事官、菊地補佐

4. 議 題

- (1) 上坂原子力委員会委員長の海外出張報告
- (2) その他

5. 審議事項

(上坂委員長) それでは、お時間になりましたので、第33回原子力委員会定例会議を開催いたします。本定例会議は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの開催となります。また、本日もですが、私、上坂、佐野委員、中西委員がオンラインでの出席となります。

次に本日の議題ですが、一つ目が原子力委員会委員長の海外出張報告、二つ目がその他であります。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

(進藤参事官) 事務局から御説明させていただきます。

まず初めに、オンライン開催に関してのお願いがございます。

御発言をされない間は大変恐縮ですが、マイクをミュートの設定にさせていただきますようお願いいたします。御発言されるときにはミュートを解除して御発言いただき、発言が終わりましたらまたミュートに戻していただければ幸いです。

それでは、一つ目の議題は上坂原子力委員会委員長の海外出張報告についてです。

では、事務局より説明をお願いいたします。

(菊地補佐) 事務局より説明させていただきます。

お手元の資料第1号、上坂原子力委員会委員長の海外出張報告についての資料を御覧いただければと思います。

出張先については、オーストリア共和国、ウィーンに9月19日から23日にかけて出張をいただきました。

渡航目的としましては、ウィーンで開催される第65回国際原子力機関（IAEA）の総会に政府代表として出席し、IAEAの幹部、また、各国の原子力関係者との意見交換を行うとともに、内閣府主催のサイドイベントに登壇しました。

出張日程としましては、9月19日にウィーンに移動した後、20日から22日にかけてIAEA総会に出席し、各国の原子力部門の要人、また、IAEAの事務局幹部との会談、サイドイベントへの登壇を行って、22日に移動し、23日に東京に到着しました。

まず、IAEA総会についての概略について御説明いたします。

第65回の総会については、クウェートのサディク・M・マラフィ氏を議長に選定して開催されました。会議の冒頭、グロッシー事務局長が、173か国目となるサモアの新規加盟を歓迎しました。

また、コロナ禍においても、不拡散の取組、検証活動を継続するというIAEAのコミットメントが強調されました。また、ZODIAC（統合的人畜共通感染症行動）のイニシアチブの支援を奨励する御発言がありました。

また、原子力エネルギーが気候変動の解決策の一部である必要があり、そのためのIAEAの取組の必要性の強調がありました。また、ALPS処理水の放出計画に関するIAEAによる我が国への支援のため、IAEAが世界中から国際的に認められた専門家グループを任命したこと、また、IAEAが日本に対して、ALPS処理水の放出前、中、後における支援をしていく旨などの表明が行われたところでございます。

その後、国連事務局長からのメッセージが紹介された後、各国の一般討論演説が行われました。我が国については当時の大臣に当たります井上内閣府特命担当大臣より原子力の平和的利用、ALPS処理水、北朝鮮の核問題、イラン核合意等について、ビデオ録画にて演説を行いましたところでございます。

以上がIAEA総会についての概略についてのお話です。

続きまして、IAEA総会期間中にバイ会談を行いましたので、その結果について御報告

をさせていただきます。

まず、上坂委員長、政府代表として実施したものについてです。IAEAのグロッシー事務局長との間のバイ会談においては、上坂委員長から、グロッシー事務局長の強いリーダーシップへの敬意とIAEAの取組への支持を表明するとともに、廃炉ですとかALPS処理水の取扱いに関するIAEAからの多大なる協力への感謝、また、日本政府とIAEAとの間で引き続き協力を進めていく必要性について発言をしました。

上坂委員長とグロッシー事務局長との間で、日本とIAEAの関係の強化に向けた具体的な方策、また、福島第一原発の廃炉やALPS処理水の取扱いに係る協力について意見交換を行い、引き続き協力を行うことで一致いたしました。

また、フランスのジャック原子力・代替エネルギー長官とのバイ会談についてです。上坂委員長からは、日仏両国による核不拡散体制の強化及び原子力の平和的利用のための協力が着実に進展することへの期待、また、今年の1月にオンラインで開催した原子力エネルギーに関する日仏委員会において充実した意見交換ができたことを歓迎する旨の発言を行いました。

また、双方の間で、両国間の原子力協力、特に高速炉開発に関する協力ですとか、あと、カーボンニュートラルに向けた対応についての意見交換を行い、これら分野における両国間のパートナーシップを更に拡大していくことで一致いたしました。

続きまして、アメリカのフルービー国家核安全保障庁長官とのバイ会談についてです。上坂委員長から、日米両国は原子力の平和的利用、核不拡散及び核セキュリティの分野におけるパートナーとして世界をリードしているということ、また、日米原子力協定は日米原子力協力の基盤をなすものであり、引き続き緊密に連携していくことが重要である旨の発言を行いました。

両者の中で、核不拡散、また核セキュリティ分野での日米協力、気候変動対策、また、クリーンエネルギー技術などについて意見交換を行いまして、両国の協力関係を一層強化することで一致いたしました。

また、原子力委員長の職務といたしまして、11件、かなり精力的に上坂委員長、バイ会談をIAEAの幹部の方々、またEU欧州委員会エネルギー総局の方、またOECD/NEA経済協力開発機構原子力機関の事務局長等々とのバイ会談を行いました。こちらについては資料を御参照いただければと思います。

私からは以上です。

(上坂委員長) 御説明ありがとうございました。それでは、佐野委員、コメント等よろしくお願いたします。

(佐野委員) 御説明ありがとうございます。今回の I A E A 総会、昨年対面でできなかったこともあって非常に重要な総会だと思います。それから、事務局長が天野氏からグロッシー氏に代わって、もう一度、日本と I A E A との協力関係、すなわち核不拡散だけではなく、核セキュリティ、及び原子力の平和利用、更には A L P S 処理水など、色々な面で I A E A との協力関係が重要なわけです。それを再確認する為、今回の上坂委員長の御訪問というのは非常に有意義なものであったと思います。

日程的にもかなりのタイトなスケジュールの中、精力的に会談をこなしていただいて、内容的にも協力関係等を確認していくという意味で大変充実した御出張だったと思います。

ありがとうございました。

(上坂委員長) 佐野委員、ありがとうございます。それでは、中西委員、お願いたします。

(中西委員) 私もどのように出張し、どなたとお会いしたかなどや、バイ会談についても、多くの要職の方とお会いされて、きちんと間を持ってくださって事務局や委員長に非常に感謝申し上げているところでございます。

3日間で多くの方とお会いし、グロッシー事務局長も日本にこの前、来られましたし、ちょうど日本との関係もこれから良くなるのではないかとと思われるところでございますので、天野事務局長の後、I A E A との関係がまた良くなるのではないかと思います。

上坂委員長、御苦労さまでした。非常に有意義な会談をされてこられたと思います。御苦労さまでした。以上でございます。

(上坂委員長) 中西委員、ありがとうございます。本当にタイトなスケジュールをこなせたのも、ひとえに事務局の皆さんの準備のおかげでありまして、サポートのおかげであると思います。

私のほうから数点、重要なところを確認させていただきます。8月に当時、梶山経済産業大臣が I A E A を訪れまして、グロッシー事務局長、あと、福島廃炉と、それから A L P S 処理水の取扱いに関して御礼と依頼がありました。私も今回、井上大臣の代理として福島廃炉、A L P S 処理水の内容とそれから安全のチェック、確認ですね、そこまでの支援の御礼と、それから今後の御協力をお願いしたという役目がございました。

このように、福島廃炉と A L P S 処理水についてなのですが、日本が責任を持って実施して、それを I A E A とそれから国際専門家グループがチェックいただくという、このプロ

セスが世界で社会受容性確保に非常に重要だなということを改めて認識しました。やはりこのプロセスが非常に重要であると。国際機関の協力を得るということが重要と。社会の理解を得るためにですね。

それから、バイ会談も多々行いました。ALPS処理水や廃炉に直接関わっている幹部の方々やそれから人材育成、それから研究開発、それから革新炉ですね。それから、安全。それから放射線応用に関する幹部の方と会談いたしまして、非常にいい、有意義な意見交換ができました。

そこでIAEA、それから、フランス、アメリカとも、日本の研究、革新炉を含めた原子炉に関する技術協力をとても期待しているというのを実感しました。それはやはり日本の技術力、特にハードウェアですね、ものづくりに対して非常に期待しているのかなと推測するところであります。

また、放射線応用に関しては新しいRIを使ったがん治療ですね。その技術開発、それからRIの製造供給利用ですね。その国際連携の話を担当の方々と話してまいりました。これもまたこの機会にサイドイベントもやりましたので、詳しくここはお話しできるかと思えます。

それから、この定例会議でも紹介しました、原子力白書及びその概要の英語版ですが、全てのバイ会談で配布して説明してきました。そこで、特に見やすい図表を駆使して分かりやすさを強調したということを説明しました。また、このことが社会への説明、それから社会受容性向上のために必要だということも説明しました。そのところをほぼ全員から賛同を得たということでございます。

詳細は、菊地さんから御説明があった議事録を読んでいただければと思いますが、重要なところ幾つかを、私から確認したところでございます。

以上でございますが、ほかに委員の方々から何かコメント等ございますでしょうか。

(佐野委員) 特にございません。お疲れさまでした。

(中西委員) 特にございません。

(上坂委員長) ありがとうございます。それでは議題1は以上でございます。

議題2について事務局から御説明をお願いします。

(進藤参事官) 今後の会議予定について御案内いたします。

次回の開催につきましては10月19日火曜日14時からオンライン会議を予定しております。議題については調整中であり、原子力委員会ホームページ等の開催案内をもってお

知らせいたします。

(上坂委員長) ありがとうございます。それでは、委員の方々から何か御発言はございますでしょうか。

(中西委員) いいえ、特にございません。

(上坂委員長) それでは、御発言ないようですので、これで本日の委員会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

(中西委員) どうもありがとうございました。

(佐野委員) ありがとうございました。